

加工・業務用の大玉キャベツ栽培技術

近年、加工・業務用途での野菜消費が増加しており、キャベツでは生産量の約半量が使用されています。加工・業務用のキャベツでは、加工時の歩留まりや作業性が重視されるため、家庭消費用よりも大きいサイズのキャベツが求められており、大玉生産のための栽培技術の開発が望まれていました。兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センターでは、大玉生産に適した品種の選定や栽植密度、在圃期間等について検討し、加工・業務用に対応したキャベツの栽培技術を開発しましたので、その概要について紹介いたします。

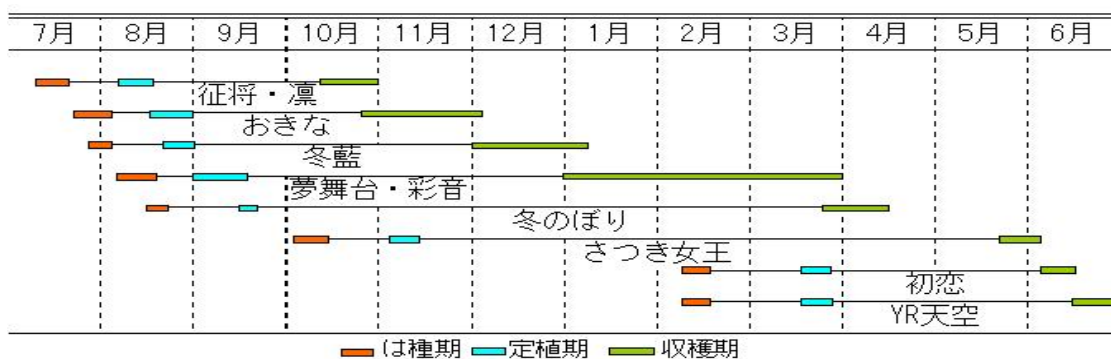
☆技術の概要

1. 加工・業務用に適した品種として、写真に示したように結球部に葉がよく詰まった寒玉系品種で、肥大性が良く、加工の初期段階で切除される芯の部分が小さいなどの特徴を有する表1に示した品種を選定することにより、10月～翌年6月までの供給が可能になりました。
2. 栽植密度がキャベツの結球重と収量に及び影響を検討した結果、10a 当たり 3,000～4,000 株の範囲では、栽植密度が低くなるに従って結球重は重くなりますが、収量には差が無いことがわかりました。また、大玉キャベツ生産では、疎植であるために種苗費が減少し、また、葉が十分に詰まってから収穫するため、収量が増加します。
3. 加工・業務用では、キャベツを圃場で選別せず一斉収穫し、大型コンテナを用いて搬出・出荷することで、作業時間は市場向けダンボール出荷体系に比べ約50%まで削減できます。
4. キャベツの1日当たりの球重増加は、日平均気温の上下に伴い増減します。日平均気温が最高19.9℃となる10月の1日当たり球重増加は最大0.15t/10aで、日平均気温が最高4.3℃となる1月では0.08t/10aでした。これを元に、加工・業務用キャベツの収穫適期の推測が可能となりました。



写真:「夢舞台」の結球

表1 作型別の加工・業務用キャベツ品種



☆活用面での留意点

1. 表に示した作型別の加工・業務用キャベツの品種は、兵庫県の事例です。他の地域では気象条件等により異なりますので、それぞれの地域に適した品種を選定してください。
2. 詳しいことは、兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター農産園芸部 (TEL : 0790-47-2423) へお問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)